



# 大江健三郎全集

---

ヒロソフィー

---

## 空間

---

四つ下の彼女と付き合っていた頃、何年かして彼女は大学生になった。

頑張って志望大学に入学できたお祝いに、何かほしいものがないかと彼女に聞いてみると、まだ学生だった僕に気を使っているのか、彼女は本棚から僕が気に入っている本を一冊もらえないかといった。

僕がふざけて大江健三郎全集が一番のお気に入りだといったら、彼女は本当にもらっていいのかと嬉しそうにしている。

彼女はアパートに来るたび一巻ずつ持ち帰ることにした、しばらくすると本棚のその部分がぼっかりと空いてしまったので彼女の写真を額に入れて飾っていた。

それから何年か後につまらない事でけんかになり彼女とは別れてしまった。

彼女の写真を片付けた時、そこに大江健三郎全集があった事を思い出していた。

僕はしばらく、その好きだった本も彼女の笑顔もないただの空間をじっと見つめていた。